

## 藤原総合文化会館検討専門部会会議録

件名	第一回藤原総合文化会館検討専門部会		
日時	令和元年5月27日(月) 14:00~15:30	作成日	2019年5月31日
場所	藤原行政センター(藤原公民館)2階第1~3会議室	記録者	資産経営課 斎藤
<b>出席者</b>			
<日光市> 上中副市長 安西財務部長、小林資産経営課長 星公共施設マネジメント係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙)  (敬称略)	
<b>議事内容</b>			

## ■配布資料

第一回藤原総合文化会館検討専門部会 資料1、資料2、資料3、資料4、参考資料、資料5  
 別添参考資料：公共施設マネジメント計画(概要版)、公共施設マネジメント計画実行計画

## ■議事録

## 1. 開会 ～上中副市長挨拶～

「皆さんこんにちは、日頃より行政各般に渡りましてご協力いただきまして、ありがとうございます。

第1回藤原総合文化会館検討専門部会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

このたび藤原総合文化会館検討専門部会を委嘱させていただいた皆様におかれましては、本部会員をお引き受けいただきまして改めて御礼申し上げます。

また、首都大学東京の山本先生、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの西尾先生におかれましては、当専門部会のアドバイザーをお引き受けいただき、誠にありがとうございます。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、日光市におきましては、急激な人口減少や少子高齢化の進行に伴いまして、税収の減少や公共福祉等にかかる費用等の増大によりまして、財政状況が非常に逼迫をしております。これは地域特性が異なる5つの基礎自治体が合併したことで、様々な市民ニーズに対応するための新たな財政需要が生じたことが理由に挙げられますが、それと同時に合併によって肥大化した公共施設の削減が合併以降ほとんど未着手のままで、その維持管理費等の負担が重いことも大きな要因と言えます。こうした公共施設は、合併前から5つの各市町村自体がそもそも財政状況が厳しい状況にあったということもあって、その多くが適正な改修や長寿命化や耐震補強、もしくは削減がされてこなかったという実情もあるのですが、今後この老朽化が進む施設の本格的な大規模改修や施設の更新が一度に集中するという時期を向かえるという切迫した現実は避けられないことと言えます。このままの状態を漫然と見過ごしてしまえば、市の財政は破綻に至ることになってしまいます。今日光市の財政は県内14市の中で、下から2番目に低いのが現実です。もちろん先程申し上げました通り、公共施設の肥大化のみが財政悪化の要因ではある訳ではありませんが、全ての公共施設を現在の姿のまま維持し続けることは、市政経営に大きな負担となって、ひいては、真に必要なサービスにまで影響を及ぼしかねないということになることは、必定であります。

このため、市では「公共施設マネジメント計画」また「公共施設マネジメント計画実行計画」を策定し、次の世代への負担を減らす適正な公共施設を目指して、公共施設の有効活用と適正配置、市政経営の規模にあった改善に向けての取り組みを進めているところであります。

こうした中で、藤原総合文化会館を含む文化会館等3施設につきましては、公共施設マネジメント計

画実行計画を先導するモデル事業の一つとして、費用面、機能面や利用状況など、様々な視点、角度から早急に検討を進めるべき施設と位置付けまして、庁内において検討を進めてきた経緯があります。

このうち、藤原総合文化会館の検討経緯につきましては、昨年8月に市内に3つある文化会館等施設の今後のあり方について、市の方針をまとめて、議会の方へ報告をし、その後2回程地域の説明会等を開催したところであります。

しかしながら、説明会の場でも、様々ご意見を頂戴したなかで、当該施設のあり方についての一步踏み込んだ検討については、市民の皆様と共に理解を深めながら進めるべきとの考えから、この専門部会を設置したしだいでありませう。

この後、担当職員の方からもう少し具体的な現状の説明があると思ひますが、これまでの経緯も含め、部会員の皆様には、市民の代表として、情報や課題を共有していただきながら、このエリアをどのように活用することが地域の将来にとって良いのか、どうすれば次世代の負担にならないような未来像が描けるのかという視点に立っての議論と検討をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひいたします。」

## 2. 部会員・アドバイザー紹介

- ・出席委員から自己紹介
- ・アドバイザーの紹介並びに挨拶
- ・事務局自己紹介

## 3. 部会長・副部会長選任

・部会長の選出については、部会長に一般社団法人日光観光協会鬼怒川・川治支部会長の八木澤哲男氏、副部会長に藤原地域自治会会長会長の竹之内正義氏を推薦する意見があった。部会員に両者の選任について諮ったところ全会一致で承認された。八木澤哲男氏については、欠席であったため、事務局にて本人確認し、ご了承をいただくこととした。

## 4. 議事

### ○竹之内副部会長挨拶

「副部会長にご推挙いただきました竹之内でございます。今回の検討の主たる目的であります、藤原総合文化会館の検討ということで、大変難しい問題だと感じておりますが、地域の将来にとって、より良い選択が出来るよう、部会長の補佐役として、精進して参りたいと思ひますので、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。」

### ○副部会長

「それでは、部会長代理として議長役を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。まず現在出席をいただいております委員の数は、「13」名で、定足数に達しておりますので議事に入りたいと思ひます。

議事に入る前に、本日、傍聴の申出がありましたので、これを許可したいと思ひますが、意見はございますか。意見がないようですので、傍聴を許可するという事でよろしくお願ひします。

それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。それでは、次第（1）藤原総合文化会館検討専門部会の役割について、事務局より説明願ひします。」

（1）藤原総合文化会館検討専門部会の役割について

- ・・・事務局より、資料1、資料2を用いて説明。

**○副部会長**

「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。

.....

委員から意見等ないようですので、アドバイザーの先生方からございますか。」

**○両アドバイザー**

「この時点では特にありません」

**○副部会長**

「それでは、次に（２）日光市の現状課題と公共施設マネジメントの取組みについて事務局より説明願います。」

（２）日光市の現状課題と公共施設マネジメントの取組み

・・・事務局より、資料３を用いて説明。

**○副部会長**

「ただいまの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。

.....

委員の方から特にないようですのでアドバイザーの先生方からお願いいたします。」

**○山本アドバイザー**

「資料３を拝見いたしまして、やはり相当厳しい現状だと思いました。これは日本全国全て同じなので、少子高齢化と人口が減っていくということで、現実的に財政がかなり豊かなところでもかなり大胆に再編しています。それから、１人当たりの延べ床面積が標準的な $2\text{ m}^2$ から $3\text{ m}^2$ のところも相当減らしています。そういう現実があるので、財政の面も、生産年齢人口がどんどん減っていくと、稼ぎがなくなって、収入がなくなるので、その辺は知恵を出しながらそこをどうしたら良いのかというのを今後お考えになっていった方が良いと思っております。」

**○西尾アドバイザー**

「全国平均の1.8倍施設持ってますよという話があったのですが、実は私がいたさいたま市と比べると3倍くらい開きがあったりするのですが、一人当たり2倍の施設があるということは、言い方を変えると同じ位の人口規模10万人弱の他の自治体と比べて、施設が倍あるということなんです。それはもちろん施設のサービスが充実しているということで、良い事でもあるのですが、先程来お金の話が出ていますが、お金の観点で言うと、同じような規模の自治体よりも、倍のお金が施設に関してはかかっているということですので、それは少し真剣に考えていかなければいけないのではないかと思います。

倍あるから、必ずしも半分に減らすと言う話ではないと思います。日光市の場合には非常に市域も広いですから、それは単純な話ではないとは思いますが、お金が倍かかっているということは、それを少しでも減らしていく努力をして、減らすんだけどもその中で何とかみんなで知恵と工夫を出してサービスについては出来るだけ拡充していくというような考え方をしている必要があると思っています。」

**○副部会長**

「他に委員さん方から特にございませぬか。特にないようですので、それでは、次の議題に移りたいと思います。

次第（３）藤原総合文化会館検討の経緯等について事務局より説明願います。」

（３）藤原総合文化会館検討の経緯等について

・・・事務局より、資料４を用いて説明。

**○副部会長**

「ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。」

**○部会員 1**

「サウンディング調査についてお伺いしたいのだが、これは2社の参加があったということなんですが、それぞれ参加された2社と言うのは公表されるのでしょうか」

**○事務局**

「サウンディング調査、実際実施する前に民間事業者とのやりとりのなかでのお約束という形で、各社が提案する内容であるとかノウハウを知的財産の保護という点で、手をあげた業者名であるとか、詳細な部分のノウハウのところについては公表しないという約束をしたうえで、様々な自由な意見を聞くと言う形をとらせていただいておりますので、提案いただいた業者名等の公表はしないような形になっている。内容としましては、単独で1社大手の業者と、複数業者がJVと言う形でジョイントを組んで提案をいただくという形で、3社共同の団体で2団体から提案をいただいたというところになります。」

**○部会員 1**

「これは、会議が今後進んでいく中で、そのうち公表されるとかそういうこともないのでしょうか。どのタイミングかで公表されるということもないということでしょうか」

**○事務局**

「具体的な影響のあるような部分の公表はしないのですが、いただいた意見のなかで、お話しできる範囲のことについては、こういった提案がありましたとか、手法についてのアイデアをいただいたというお話は出来るのですが、業者名であるとか、具体的なところは差し控えさせていただくことがあるかと思えます。」

**○部会員 1**

「わかりました。ここの部分については、私達から言うと、文化会館の跡地、取り壊す後というところで、どんな業者がやるのかわからないという不安があるかなと感じております。もう一つ、このサウンディング調査の結果公表というのは、2社の提案してきたミックスしたものなのか、それぞれ良い所を取り出して発表したというものなのか。それともどちらか1社の提案を受けたという形なのか。」

**○事務局**

「そもそもサウンディング調査自体が、業者さんを決めるというものではなくて、あの場所にどういったものを整備できる可能性があるのかという調査になります。2社の良い所とりと言えば良い所とりで、藤原総合文化会館の場所にどういった可能性があるのかというのを民間業者さんとの対話の中から導き出して、その導き出したものをこの専門部会の中でたたき台として、あの場所をどういう形で整備できるのかと言うのを皆さんと今後検討していくということになります。サウンディング自体では色んな意見が出ておりますけれども、あそこを民間事業者が全てやるとかそういうことではなくて、跡地をどういった使い方が出来て、どういったものを造って、それをどういう形で管理運営、造るところから管理運営まで含めてやっていけば、より効果的なものが出来上がるのかというところを検討していくということになります。この後、今日お配りした資料5のなかで、公民連携という手法も視野に入れたなかで、どういったことが出来るかということを検討していければと考えている。」

**○副部長**

「他に委員さん方からないようですので、委員から意見等ないようですので、アドバイザーの先生方からございますか。」

**○山本アドバイザー**

「私もいくつか公民連携の審査もしておりますし、サウンディングは提案を受けた業者の評価もしたんですけれども、やはり民間の方は行政が考えないようなことを提案される場合があります。それは、完全な最終的な提案なので、業者名等も公表して決定しましたけれども、その事例で言いますと、かなり広大な公園で、除草も大変だということで、行政もお金がかかるばかりだったのですが、そこに民間が入ることによって、予想もつかない集客を考えてきて、今か

なり話題になっているような話も出てきているので、民間にその辺うまくある程度利用しながらやれば、立地も良いですから、あの場所をどうにかうまく使えば良いと思いますので、それは今後皆さんとお話ししながら、色々なことを考えていけば良いと思います。」

### ○西尾アドバイザー

「サウンディング型市場調査をやっているというのは、非常に画期的というか、多分日光市としては、初めての取組じゃないかと思います。通常、行政が先にやり方を考えて、後に民間に委託するという順番だと思うのですが、それが逆で、行政としてのやり方を決める前に民間の意見を聞くことでやっているのです、2社ということでしたけれども、賑わいとか情報発信の拠点としての可能性があるよという話が出てきたので、それは非常に夢が広がる話かなと思っています。ただ、行政としてやっていきたいという思いもあるでしょうし、民間としてあの場所を使って出来る部分もあって、もう一つ市民としてこうしたいというのがあると思うんですね。民間力と市民力といったものが、行政の考えと、この3つがうまく合わさるような形で今後検討が進んでいくと良いのではかと思っています。」

### ○副部長

「ありがとうございました。他にないようですので、では、次に（４）検討事業手法について事務局より説明願います。」

#### （４）検討事業手法について

- ・・・事務局より、資料5を用いて説明。

### ○副部長

「ただいまの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。

.....

特にないようですので、専門的な知識を有するアドバイザーの先生方にアドバイスいただければと思います。お願いいたします。」

### ○山本アドバイザー

「このPPP（公民連携）に関しては、いろいろな考え方が、組合せがありまして、例えば、公的不動産活用の定期借地方式、これについては、お金がいかにおりる方が良いという選択をしている自治体もあります。逆に、それにプラスやっぱり市民の方のためになるような使い方が必要だということで、両方判断があると思います。色々な判断の仕方があると思います。それと、PFIという完全な民設民営する中にもある一定の歯止めをかけながらやっているという形もあります。今はPFIⅡ（ピーエフツー）という形の動きも出てきていますので、これはかなり運営権まで売ってしまうという形も出てきているので、色々な工夫があるので、これに関してはこの場所にあった選択の仕方があると思います。」

### ○西尾アドバイザー

「これについては、詳しくは次回以降やっていくと思うのですが、この資料5に書いてあることの簡単なご説明だけしたいなと思ったのですが、民設民営とか公設民営とか「設」と「営」という字が書いてあると思いますが、これは建物を建てるの「設」、建物を整備するものと、建てた後の運営、整備と運営を分けて考えようという考え方になっていまして、建物も運営も全て公でやっていくのが直営方式なんですけれども、建物整備は公でやるけれども、運営は民間に任せようということになると、「公設民営」と言って、それはひとつの民間活力の活用ということになります。逆に建物は民間が建ててもらったものを行政が借りて使うという「民設公営」それもひとつのやり方になります。すべてを施設一緒くたにして直営でやるのか民営化するのかという考え方ではなくて、設と営を分けて、この部分については民間がやった方がより良いものが出来る、この部分は行政がやった方がより良いものができるよということに分けて考えることがPPP（公民連携）なのかなと思います。先程山本先生が仰ったように、この藤原の場所、あの施設で最も良いやり方というのをこれから検討していければ良いのかなと思います。」

**○部会長**

「ありがとうございました。それでは、他に委員さん方からありましたら。」

**○財務部長**

「事務局の方から少しよろしいでしょうか。」

話がもとに戻ってしまうと恐縮なのですが、本日の会議で事務局側からお示しさせていただいたことで、もう一度全般的なことでおさらいさせていただきたいと思います。

まず、日光市がおかれている状況で、非常に人口が減っていくなかで、建物が多くて、その維持が非常に困難になっている。その象徴的なケースが文化会館等の3つの施設、これを全て維持していくというのはかなり難しいという現状があるということをお話させていただきました。資料4の2ページ下の部分で、ステップ1、ステップ2ということで書いてあるんですが、この3つの文化会館等施設を維持していくのが難しいなかで、施設があるだけでお金がかかってしまいますので、出来れば、耐震性とか、利用率等を考えて日光と藤原の文化会館は廃止したいという考え、案を持っています。その話を8月、11月の地域説明会でお話させていただいたのが、この話になっています。その時に廃止した後にあの場所をどう活用するんだということをも具体的にイメージするのに、もう少し具体的な案が出せないかということで、その流れを受けて今回の専門部会というのは設置されている訳です。壊した後にあの非常に良い立地ですので、どう有効な活用が出来るのか、それを探るのが、市役所の内部だけで考えて計画を出すよりも、民間の知恵を参考にした方が良さだろうと言う事でやったのが、サウンディング調査です。資料4の7ページになりますが、この時点では、まだ具体的なことにかけるんですが、観光情報センターについてのことが条件としてありますよ。これは市が民間事業者とやりとりする時の前提条件として示しているものですので、1の方で、土地の活用について、2で観光情報センターの機能は必要だということ、3であの場所を考えれば、観光の玄関口としての観光振興、賑わいの場、地域住民と観光客の交流、自然との調和、こういったことを検討する必要があるから、こういう可能性はどうかというやりとりをする条件として、市が示して、それに対して事業者2社から、先程説明があったような回答が来ているんですが、まだこの段階ですと具体的な所まではなかなかいかない部分があります。ここで出てきた提案で全部決めることではなくて、市側が前提条件として出したようなことで、それを通じて事業者側と対話することで、事業の可能性が確認できたという事は、この方法で検討は進めて行って良いだろうと。ただここでは具体的な話が盛り込まれておりませんので、今回皆さま方にお集まりいただいているのは、あそこの跡地をどうやって活用していくかという時に、それぞれのお立場でこういったものがあっての方が良い、この視点でやる時にこういったものが出来ないかと言ったご意見をいただきたい。もしかしたら、こういうものがあつたら困るとか、こういう使い方されるのはどうかというご意見も出てくるのではないかと思いますので、そういったことをお話ししながらこの後進めて行って、この場で全てが決まるという訳ではなくて、関係する方々の色々なご意見もあるかと思うのですが、そういった意見を伺った上で、一定の方向が固まればそれで良いと思いますし、ただし、それが土台になって、それで具体的に、公民連携の話もありましたが、民間がどこの部分でその力を借りるのかとか、そういったことも含めて、どういう方針で行くのかという事は、この後、皆さんにご協議いただいた内容をもとに更にサウンディングをやるか、どういう方法になるかまだ分かりませんが、それをベースに次の実施の段階の案をつくっていくというような進め方を考えておりますので、この後、あの場所を有効に使っていく上で、皆様方のそれぞれのお立場で、こういったことが考えられるのかというご意見をお伺いしていきたいということで、この会議は進めさせていただきたいと考えております。」

**○副部会長**

「他にないようですので、それでは、山本先生、西尾先生ありがとうございました。議事の方はこれで閉じたいと思います。長時間ありがとうございました。事務局にお返しいたします。」

**○事務局**

「ありがとうございました。事務局より連絡事項・・・次回以降の会議開催日程の連絡では、以上を持ちまして第一回藤原総合文化会館検討専門部会を終了させていただきます。」

以上